

棚
田

ライステラス

第2号 1996.3.29

(季刊・年4回発行)

発行／全国棚田(千枚田)
連絡協議会
編集／ふるきやらネットワーク・木村美江
〒160 東京都新宿区若葉1-6
エンゼルBOX101
TEL 03-3355-0420/FAX 03-3355-4220

広がる、棚田を保全する市民の輪

金色の実りを待ちながら

「自分たちの力でどうにかできないか」と、棚田を保全するためあれこれ施策を巡らし、地元の農家と協力して活動している「市民ネットワーク」が全国に出来始めています。地域色を生かしたどんな活動をしているのでしょうか。

●棚田の活用法を思案中

—熊本県水俣市久木野ふるさとセンター・愛林館

古くからの山村文化を伝承している水俣川源流の地、久木野。主産業があつた林業の衰退と共に進んだ過疎化が深刻な問題となつてゐる。市では若者の定着をねらつて活動の場を提供しようと、平成六年九月に「愛林館」を開館し、地元の団体に管理・運営を委託している。ここでの特徴は館長を全国から公募したこと。二十五名の応募者の中から熊本県西合志町出身の沢畠亨さんが選ばれ、六年十一月より館長を勤めている。

久木野にある田んぼはほとんどが棚田。総面積は六〇㌶ほど。愛林館では、地元農家から棚田を二枚(約三㌶)を有償で借り、稻作体験の希望者を募つてゐる。一回目の昨年は、二十名ほどのボーリスカウトの子供たちが参加して、手で行われる棚田での農作業のたいへんさを学ぶ場となつた。

また、土・日・祝日に開業するレストランで、棚田米や農産物を使った料理や飲み物の提供もしている。こちらは地元の女性たちが中心。売上から時給が支払われているそうだ。人気のメニューは、棚田米を使ったタイ料理と、棚田の転作作物であるそば粉一〇〇%で

作った手打ちそば。そばには、棚田で働いた合鴨(除草用)のスープと肉が使われている。現在も、棚田でできた素材を生かした料理のアイデアを出し合つて、新たなるメニューの研究をしている。

「今は活動の形をつくる段階。だから、出されたアイデアはなるべく取り入れてみようと思つていています。棚田については、生協と協力して、除草剤や農薬の使用を最低限に抑えた品質的に安全な米を契約栽培で作ることを実現したい。そのことで地元農家の副収入を確保し、地域の活性化につなげなければと考えています。また、棚田の農業に対するデカツプリング政策の導入や人工林の除伐に対する一層の補助、水源税の復活など、ある程度の社会的な経済支援は絶対に必要。そのことを愛林館での活動を通して訴えていきたいと思います」と、沢畠館長は話している。

●お問合せは、水俣市久木野ふるさとセンター・愛林館(○九六六一六九一〇四八五)

●宿泊、風呂、調理などの施設もあり

●全国にネットワークを

—棚田ネット東京

「今の棚田連絡協議会の形では、個人会員が

●目次 / Contents

広がる、棚田を保全する市民の輪.....	1
愛林館(熊本県水俣市)・棚田ネット東京	
山村塾(福岡県黒木町)・石川県輪島市白米	
寄稿・棚田への想い (株)浜勝 元岡健二.....	3
オーナー制度への取り組み(更埴市・紀和町).....	3
第二回棚田サミット開催にあたって~西有田町.....	4
トピックス.....	5
ええっ東京の真ん中に棚田が出現?!	
田んぼは聖地だ・長野で棚田の番組が放映	
寄稿・棚田の英訳の修正 佐々木卓也.....	6
インフォメーション.....	6

峰広早稲田大学教授も会員である。棚田に関する調査・研究を続けている、中島会社員、会社役員、団体職員、弁護士と多岐にわたつてゐる。全国棚田分布地図を製作し、

現在の主な活動は、会合での棚田に関する情報交換、五月に予定している棚田見学ツアーや企画と会報づくりである。

今まで会合に参加したり、何らかの連絡をしてきたのは三十人ほど。二十歳そこそこの若い人から八十歳を越えた方までと幅が広い。

また、職業もさまざま。学生、主婦、公務員、会社員、会社役員、団体職員、弁護士と多岐にわたつてゐる。全国棚田分布地図を製作し、

年会費は、一般三千円、学生二千円。入会するための条件はないが、農業に関心のある方、ふるさとが遠くてなかなか帰れない方、お米屋さん、戦後五十年経つて今の社会はどこかおかしいと感じている方、子供を自然に触れさせたいお父さん、お母さん、棚田の風景がきれいだと思う方、川のそばに住んでいて洪水は困ると思っている方、その他話したい知りたいことがある方に参加してほしいとのこと。

呼びかけ人の高野光世さんは、「これから活動についてこう話す。」「私たちとりあえず、関東地方在住者が中心なので、いわば「棚田ネット東京」です。全国各地に「棚田ネット名古屋」「棚田ネット関西」「棚田ネット九州」などが生まれて、それぞれの活動が始まるところを願っています。また、それによつて幅広い参加者が集まり、多様な活動ができるといいなと思っています。デカントプリングとかグリーンツーリズムとか、さまざまな可能性が言われてますが、棚田地帯の農家の人たちが本当に願っていることは何か、きちんと受けとめて、望ましい“応援団”的姿を探つていきたい。そして棚田連絡協議会に対しても、自由な立場と自由な発想ですね。」

●お問合せは、高野光世さん（〇四二三一九五一一八四）まで

●自然と人との共存を求めて

—山村塾・福岡県黒木町

山を針葉樹一辺倒からバラエティーに富んだ山に変えます。そうすると水源としての機能も高まり、生き物の種類も増え、親

しめる山に変わります。棚田を維持し、休耕田を復田すれば水害の予防になります。農薬を使わなければ川や田圃に魚や虫がたくさん住み楽しめます。また安全な食料も確保出来ます。そのためには理解ある土地所有者と、自然を大切に行動する人と、自然をあまり痛めない技術が必要です。幸い理解ある農家があります。稻作や山の仕事を体験しながら輪をひろげましょう。

そう訴え、自然と人との共存を求めて出ることから始めよう、黒木町で「山村塾」が結成されている。会員を募集しているのは、稻作体験と山林体験の二コース。

山林体験では下草刈、間伐、枝うち、植林などを体験する。指導には、林業青年部の宮園さんがある。年会費は一万二千円。稻作体験コースは棚田での米作りを体験する。指導には合鴨農法で無農薬米を育て



田植えの季節はもうすぐ。山村塾会員による田おこし

ている椿原さんがあたる。年会費は四万円。カリキュラムは田植え、草取り、稻刈りなど。会員の特典は、体験を通して山村に親しめる、収穫後に無農薬米一俵渡すなど。会員には追加分二俵を優先的に優先的に確保（一〇キロ六千円）、としている。

また、会員共通の特典として、昼食・宿泊が準備される・農作物を低価格で買える、山村塾便りの配布などもある。さらに、山村塾顔見せ会、山林探検、赤米の花見、収穫祭などの特別行事も実施されるそうだ。

塾の事務局は、指導にあたっている宮園さんと、椿原さんと、県職員もしている毛利さん。三人でとにかく楽しみながらやつて行こうと話しているという。

「会員は生協の組合員が多いのですが、環境問題に取り組む人、不登校の問題に係わっている人、学生なども参加している楽しい会です。収穫祭には百人近く集まるのに、草取りには十人しか集まらなかつたりしますが、気にせず取り組んでいこうと思つています」と毛利さんは話す。

●お問合せは、毛利宗孝さん（FAX 〇九四二一五四一〇八六六）まで

●耕廃田に救いの手を

—石川県輪島市白米

今年は、おおぞら農協の職員が二百五十ヶ所の田で作業を手伝うという。

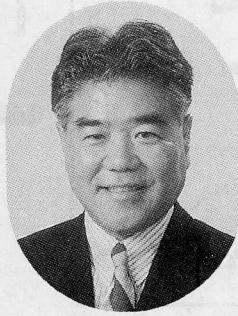
しかし、地元では「田植えや稻刈りが中心の今のボランティアでは問題の解決にはならない。農作業で一番大変なのはあぜ塗り。小さな田をきちっと細かいあぜで守るには熟練した技術がいる。定住し年間を通して作業をする手がほしい。」と長期にわたる援助の手を求めている。

●お問合せは、輪島市役所 商工観光課（〇七六八一三一一一四六）

対策として平成五年から基金八千万円を創設。市ではその利息をもとに年間約三百万円を維持費用に充てるようになつた。また市民からの声も高まり、市役所職員や連合石川などのボランティアによつて百六十枚が復活。最近では学生の援農も来ている。その中で、オムロンフィールドエンジニアリング株金沢支店は、毎年五月一〇日のオムロンデーから、休日を利用してのボランティアをしている。オムロンデーとは、オムロンと系列会社の全社員が社会奉仕活動をしようという日。以前は金沢市内で花壇の手入れなどをしていたが、ものを育てる楽しみを知つて、四年前から白米での農作業を始めた。積極的に活動する堂下さんは「機械万能の現代で手作業で行う農作業の苦労と同時に収穫の喜びを感じています。最近では棚田でのお米とお酒作りについて勉強を始めたんですよ」と話す。

今年は、おおぞら農協の職員が二百五十ヶ所の田で作業を手伝うという。しかし、地元では「田植えや稻刈りが中心の今のボランティアでは問題の解決にはならない。農作業で一番大変なのはあぜ塗り。小さな田をきちっと細かいあぜで守るには熟練した技術がいる。定住し年間を通して作業をする手がほしい。」と長期にわ

棚田への想い



株式会社浜勝 代表取締役
全国棚田（千枚田）連絡協議会
正会員

元岡 健二

浜勝は、九州を中心に、とんかつの専門店を四十五店舗展開している会社です。

昨年の五月、地元島原半島の千石（ちぢわ）の棚田を見学する機会がありました。一時は、新潟の魚沼のコシヒカリや山形の飯豊町のササニシキなどブランド米を使用していましたが、米不足を機に地元でとれる、こだわったお米を使おう（特別栽培米＝低農薬、有機栽培米）生産者の顔が見えるお米を使おうと思っていた時期でした。

目前にそびえる石垣の波を見たときは感動で目頭が熱くなりました。先人たちの気の遠くなるような労力と、お米に対するあくなき情熱を目撃したときに、苦労されながらも必死で棚田を守らされている農家の人たちを支援するものが浜勝の天命だと感じました。その後、大分の竹田の棚田米、福岡の星野村の棚田米と棚田にこだわっています。

最後に、今年の九月に西有田町で開催されます「第二回全国棚田（千枚田）サミット」に参加して、全国の棚田に係わる皆様と交流できるの楽しみにしています。

すばらしい棚田（千枚田）を後世に残そう —長野県更埴市

—空ひとつあまりて月の田毎かな芭蕉の「更級紀行」の一文で有名な、更埴市・姨捨（おばすて）地区の棚田は、その景観の素晴らしさから「田毎の月」、名月の里として知られています。この棚田を保全し、活用するために、更埴市では参加型農業「棚田貸します」制度を取り入れることを決めた。

これは、ふるさと水と土保全モデル事業として導入されるもので、いろいろな理由で耕作できなくなった田を農家から市が借りるというものの。それを公募により選んだオーナーに貸し、棚田での田植えや稻刈りなどの体験をしてもらう。借地料や管理費などの経費を一部、オーナーに負担してもらうことになっている。（もちろん収穫したおいしい新米を味わうことができる）

姨捨棚田地域にある 25ha 約 2,000 枚の田のうち、モデル事業地となっているのは 3ha 230 枚の田である。市では個人参加者だけでなく“家族そろっての団らんや自然と親しむ絶好の機会です”と家族や団体の参加も呼びかけており、それに対応できるよう宿泊施設や温泉、農道の整備などを進めている。

現在は、制度導入のための組織づくりを始めるというような大枠が出来た段階で、具体的な費用やスケジュールなどについてはこれから徐々に決めていくという。今後の市の動きが注目される。

◆更埴市役所経済部農林課
(026-273-1111)



オーナー制度への取り組み
広がる
都市住民との
交流の輪

雄大な自然の宝庫「丸山・千枚田」 —三重県紀和町

紀和町・丸山地区を訪れると、高低差約 100m の山間地に千枚田が雄大に広がる姿に、思わず眼を見張らされる。町では 4 年前から荒廃した田への取り組みを始めており、現在約 850 枚までを復田をしたそうだ。1~2 年の内には 1,000 枚まで復田をする予定であり「日本一広い文化遺産になる」と話す。

この千枚田を町と町民と農家が一体となって存続しようと平成 6 年 3 月に「紀和町丸山千枚田条例」を制定し、同年 9 月から施行している。これは千枚田を保護し活用するための町、町民、所有者の責務や町の助成等について定めたものである。

また、オーナー制度も導入も始めた。料金は 1 口約 100m² で 3 万円。田の 1 枚 1 枚の条件が違うため、応募者の中で抽選をして田の割り振りを決めるそうだ。オーナーになる条件は、土を守り自然を愛せる人・農業に情熱を持っている人・農作業に従事できる人ということ。また、応募する時には、動機と農業に対する意見も提出することになっている。

オーナーになると田植え、稻刈りなどの体験はもちろん、こんな特典がある。①来年 3 月に完成予定の交流（会議・宿泊）施設を利用できる②広報「紀和」と千枚田ニュースの提供を受けられる③町で採れた季節の野菜を年 3 回提供を受ける④最低補償として白米 20kg が提供される。

今年は 100 口募集をし、70 口が決まった。5 月 26 日には田植え祭が、9 月下旬には収穫祭が予定されている。名実ともにそなわる「千枚田」の復活が、楽しみである。

◆紀和町役場企画観光課 (05979-7-1111)



「農の心」を伝えていきたい

第二回サミット開催にあたって～佐賀県西有田町



天を写す鏡のよう。水を張った西有田町の棚田

私たちの町、第二回全国棚田（千枚田）サミットを開催する佐賀県西有田町は、県の西端にあり、面積は三八・七一平方km。東には日本本の「名水百選」や「水源の森百選」に選ばれた県立自然公園の黒髪山系、西には九州自然歩道の佐賀県側のスタート地点である国見連山。そして、その東西の山間を駆け上がるかのように数千枚の棚田が拓け、大小約四百の農業用ため池が築かれています。また、町の中央部を母なる川「有田川」が伊万里湾へと流れ、人々の暮らしを支えています。

古伊万里や色鍋島、柿右衛門様式で世界に名を馳せている焼き物の産地、伊万里市と有田町との接点にあり、人口九千七百人の小さな、しかし自然環境に恵まれた「農業と焼き物」の町です。また交通のアクセスにも便利で、西九州自動車道「佐世保三川内インター」から十分で、農山村の中では比較的立地条件に恵まれたところに位置しています。

棚田は、今更言うまでもなく、私たちの先人が、爪を割り、血の汗を流しながら、當々と築き上げてきた歴史的文化遺産です。今日のようにブルドーザーなどの機械がない時代に、全て人々の共働の力で築き上げたものです。本町は、この先人によって拓かれた「棚田」に象徴される中山間地農業の存亡に、町の将来を託しています。町の水田面積六一〇haの四分の一の一五〇haが棚田であり、その棚田は四百ものため池が支えています。私たちには、棚田を農業生産の場として、さらには防災対策、環境保全の面からも後世に残し、保全しなければならない責務があります。

本町は、連帯感と相互扶助の精神構造を大切にしています。その精神構造は、先人が、

今まで、棚田に象徴されるふるさとの農業を守るために、田植えの労苦を共にし、収穫の喜びを分かち合ってきた農村における共同体の精神であり、「農の心」であります。その具体的な表現として、毎年、稻作文化を共有するアジアの人々と連帯と相互理解を深める田植唄アジアフェスティバルを開催しています。タイ、スリランカ、韓国、インドネシアなど稻作文化を共有するアジア諸国からの招待者四十名をはじめ、国内留学生など百名を超える人々が西有田を訪れ、町内の家庭にホームステイをし、草の根の国際交流の中からアジアの人々と稻作文化のすばらしさを確認しています。

今年のサミットで、棚田に思いを寄せる全国多くの人々と議論を深め、後世まで、農山村に伝えられた日本農業の文化遺産である棚田を残すよう発展、継続する運動の足掛かりにしたいものです。同時期には、本町の主会場で、世界農業博覧会も開催されており、是非、西有田の地へお出かけ下さいますようお願いいたします。

昨年の九月、四万十川の源流、高知県梼原町の中越町長のご尽力によつて、同町で、第

で、西九州自動車道「佐世保三川内インター」から十分で、農山村の中では比較的立地条件に恵まれたところに位置しています。

「棚田のきのう・きょう・あした」をテーマに、全国各地から棚田を有する市町村長をはじめ、棚田に熱い思いを寄せる千人を超える多くの人々が集い、棚田の持つ意義や必要性の確認と次回開催地での再会を約束しました。

第二回全国棚田（千枚田）サミットは、すでに理事会、幹事会を開催し、サミットの内容について検討を進めています。

開催日は、九月一〇日（火）、十一日（水）の二日間、棚田が眼下に望める国見湖畔公園や町体育センターを会場に開催します。今回は棚田の保全活動に対して、都市生活者との共通理解を深め、コンセンサスを得るためのサミットと位置付け、「棚田・未来を耕す・都市との共生の中で」をテーマとします。基調講演は、木村尚三郎先生（東京大学名誉教授・国民生活審議会会長・厚生省中央社会福祉審議会会長）に、パネルディスカッションのコーディネーターは岸康彦先生（日本経済新聞社論説委員・農政ジャーナリスト会長）にお願いしています。

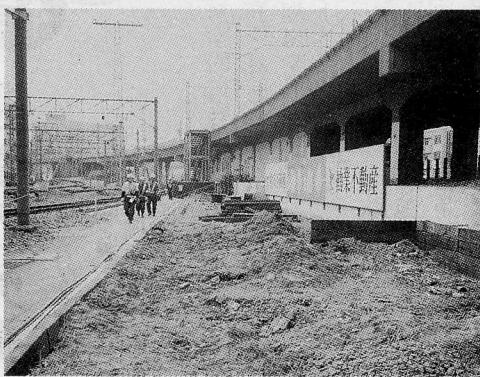
今回のサミットで、棚田に思いを寄せる全国多くの人々と議論を深め、後世まで、農山村に伝えられた日本農業の文化遺産である棚田を残すよう発展、継続する運動の足掛かりにしたいものです。同時期には、本町の主会場で、世界農業博覧会も開催されており、是非、西有田の地へお出かけ下さいますようお願いいたします。

●お問い合わせは、西有田町役場 農林商工課

○九五五一四六一一一一／○九五五

トピックス

線路わきにある棚田予定地、まだ土づくりの段階



「見て、あんなところに棚田があるぞ！」
「ホントだ。いつの間にできたんだろ。隣りの畑に植わっているのは大根かな？」
「うひやうそうみたい。何だか故郷が懐かしくなつちやうなあ……」
こんな声が東京都心を走る「山手線」の中から聞こえてくる日も近いかも知れない。何せ、駅のホームの目の前に棚田と畑を作つてしまおうというのだから。

場所は、東京の大動脈と言われているJR山手線の「大崎駅」。大手有名企業のでつかいビルに囲まれている駅だ。田畑ができるのは、駅の構内の約二百六十坪（幅約三メートル）ほどの土地。乗客の鑑賞用植物を植える場所であつたが、駅長、駅員が賛同し駅の美観運動として無償で貸してくれた。また、周りの企業や商店も、続々と道具の提供な

手をしているのは、地元商店街や警察署、企業などから参加のボランティア（参加したいといふ人なら誰でもOK）。今年の二月二十四日から毎週土・日曜、朝一〇時から午後三時まで作業をしてい。これまで八回の作業で、延べ二百二十人くらいの人が集まつた。呼びかけ人の綱島信一さんは、大崎生まれの大崎育ち。とことん大崎にこだわる、地元しゃぶしやぶ屋の経営者。品川区内の商店街を盛り上げたり、都会の人々にコミュニケーションの場を提供したり、地方の町興しの相談にのつたりと”人を元気にするためなら何でもやつちやおう”という人である。

「大崎は、山手線の停車駅の中でも印象の薄い町でしょう。それと、自然の持つ大きな力と命の大しさが改めて分かるよね。だけどコンクリートに囲まれた都会で生活していると、その大きさをいつの間にか忘れてしまう。棚田作りで一緒に汗を流し、田植えをして命を育てる。それを乗客が電車の窓から見て、四季を感じ、命の尊さを思い出してくれればと思うんだよね。」

今は、土が硬く小石も多いため、づるはしで土を掘り、こし、柔らかくしている最中。考えていた

ええ？ 東京の真ん中に
棚田が出現？！

— 東京都品川区

どの協力をしている。さらに、交流のある宮城県大崎地区古川市の協力で棚田にサニシキの苗を植えることも決まり、定期的に指導してくれる人も来てくれるそうだ。

腰をきりつ、汗をかく気持ちを実感しているという。

「畑はともかく何で棚田なんだよ。隣りの畑に植わっているのは大根かな？」

「撮影の間、一番苦労したのは天気。当然のことですが、その年の気候や気温によって田植えのタイミングを逃してしまった。まして日本人にとって心和む風景だから」と、よく聞かれます。”棚田は日本の人たちに故郷を感じてもらえた方が多いから、そういう気持ちを持つ人は多いんじゃないかな。そ

うと思いません。確かに『馬鹿げた事だ。農業は遊びじゃない』とい

う批判も多いけど、たとえ始めは真似事であつても続けられれば本物になる！ そう思つてこれからも、みんなで、楽しんで作業していく

さ。さらに綱島さんは言う。「人間が好き。だからもっとコミュニケーションができる場を作つていただきたい。いくらお金があつたつて人が集まんないや何もできない。集まればそこから、何かが生まれる」と。

棚田のたの字も知らない人たちは集まつて理屈よりも先に行動を始めたかったのが呼びかけの理由かな。それと阪神大震災や北海道の落盤事故のニュースを見ていい感じつぱい。まだまだ実りの時までは遠い。しかし一步また一步と少しずつであるけれど、確実に近づいていく。この一步は間違いなく、何かを生み、やがて棚田や自然への大きな関心へとつながっていくことだろう。

「うれしかったのは、農家の方々から『四月から始まる米作りの励みになつた』という声が寄せられたこと。何よりの褒め言葉でした。しかし『もつと農家が抱える現実の問題について触れてほしかった』という批判の声もありました。これについては企画段階から制作部でも議論があつたんですが、今回はあえて棚田の景観美を中心とした番組をつくることにしたんです。番組を見た方が『改めて見ると美しいんだな』と思うものを作ろうつて。そのため親が子供を撮るような優しい気持ちで田んぼを撮ろうと心がけました。

番組の最後に「田んぼは聖地だ」とのナレーションが入る。くどくどと解説するのではなく、シンプルな形でその言葉の意味をスッと実感させてくれる映像であつた。

田んぼは聖地だ

— 長野県で棚田の
テレビ番組を放映

千枚あるというので数えてみたが九百九十九枚しかない。ひょいと足元の菅笠を取り除いてみた

ら、小さな田んぼが一枚現れた。こんな話が語られるほど、小さな田んぼが天に昇る階段のように広がる棚田。この姿をもつと多くの人に見てもらおうと、制作したのは長野朝日放送。番組を提供したJAから、「棚田を取り上げて欲しい」という要望があり、昨年三月から企画を始めた。

内容は、一年かけて収録した更埴市姨捨地区の棚田の四季の風景を中心。ジョニー・ハイマースさんの写真集『たんぼ』をイメージして作つたというだけあって、棚田と周りの自然との調和がかもし出す美しさ、高潔さがあふれている映像だ。そこに棚田の歴史や果たしている機能の話が織りませてある。例え、棚田がメダカなど周りで生きる小さな命を維持していることを、棚田を願い、祭りにより神に感謝するという文化を作ってきたことを。地すべり地帯において、災害の元となつている水を貯めし資源へとかえていることを。

長野朝日放送・制作部の山下千帆さんは、「印象に残つているのは、春、初めて田んぼに水を入れる初搾（はつひ）」のシテ感動しました」と話す。姨捨では、標高八七〇メートルの山の上から四四〇メートル下の棚田まで水を送る。あちこちにある堰を開け、今か、今かと待ちわびいでいるような乾ききつた田んぼに水が落ちた時、大地がパチパチと

棚田の英訳の修正

「アグリ・テラスへの農村地域活性化」

石垣を讃える会・代表事務人
全国棚田(千枚田)連絡協議会正会員

佐々木 卓也

地形学的に表現すればテラスとは段丘を意味し、永年にわたり河岸や湖岸や海岸において侵食を受け、階段状に形成された地形をいう。ケスター(選択侵食)の発達したヨーロッパ各国では、台地状の平坦面にも学術用語として充用され、大地(テラ)の形容詞的用法により一般化した。

この自然環境を活かしてヨーロッパでは、公園施設の典型として段庭を造営し、ケスター状の地形面に台町を建設し、街路中央部の土盛分離帯でも各々テラスと翻訳された。家屋施設としては主に陸屋根や平屋根を言い、基盤床面の張出部分や縁側構造の付属施設の呼称も一般化した。

日本列島では古来東アジアの農耕文化の代名詞として稻作が一般化し、二毛作用も含めて、ライス・テラスの表現が定着した。元来稻作が導入される以前には、焼畑が一般的土地利用であり芋類や雑穀類は原始的な段畑で栽培されていた。いわば律令国家建設の基本政策に稻作は不可避な存在として、古代社会以来土地利用の王者として君臨する事となつた。他の土地利用は度外視した稻作のみに愛情を注いだために、列島全体に棚田の美観が展開したのだろう。瀬戸内地域に展開する段畑の美観もかかる日本の農耕文化の代名詞でもあります。日本の農耕文化の代名詞でもある沿岸・島嶼地域も同様であろう。

■ご案内欄にのせる情報を寄せ下さい。
募集したいこと、お知らせしたいこと、何でも結構です。

本米は英訳ではテラスド・フィールド(段畑)が一般的で、土地利用の上からは作物(クロップス)・家畜(キヤトル)・果樹(オーチャード)等により、各々の名詞にテラスを付着させ合成された『段畑』を総称している。栽培作物から主要穀物の稻作(ライス)・麦作(フライート・バーレイ等)が、主要作物の代表トウモロコシ(コーン)・豆類(ビーンズ)・芋類(ポテト)・野菜(グリーンズ)等が、各自作物名を冠して総

つまりは段畑も含んだ棚田の景観を、ここでは農耕文化の段状景观を意味するアグリ・テラスを正式な英訳にしては如何かここに提言したい。

③編集後記

棚田でボランティア活動をしている方々に話を聞いた。その中でよく出てきた言葉は“食”。“農薬を使っていないお米を食べたい”“将来の食糧危機に備えて自分で食べるものは自分でつくる”“棚田は日本人の食のルーツの場だ。失いたくない”“子供に食べ物の大切さを教えたい”など、棚田での作業を通して感じている、“食”へのこだわりはさまざまだ。

伊丹十三監督の次回作は「スーパーの女」。評判が悪いスーパー・マーケットを改善していく話だそうだ。コマーシャルフィルムでは伊丹監督が「安全な食品を食べていますか、有機栽培の言葉に騙されてませんか…」と買い手に問い合わせ、良い店のチェックポイントを挙げている。マルサ、ミンボーと、映画が上演されるたび、その背景になっている社会問題までを話題にしてしまう監督の作品。間違いなく今年は「安全な食」を求める人が増えそうである。

一般消費者の‘食’へのこだわりは、「棚田を持つ農家が抱える問題は‘他人事’ではない。自分たちの問題でもあるんだ」という意識に変える一つの道かもしれない。

Information ご案内

応募作品2,678点の結晶が伝える棚田の姿

写真集『棚田』発売中!

2月26日に、写真集『棚田～ふるさとの千枚田』が発売されました。これは、オコジョやエゾリスなど守っていきたい自然を題材にした講談社の「フォトルピナス」というシリーズに、今回新たに『棚田』が加わったというものです。使われている写真は、第1回全国棚田(千枚田)サミットのプレイベントであったフォトコンテストへの応募作品、2,678点より選ばれた60点の作品です(受賞作品)。写真それには撮影者のコメントが添えられていて、棚田と、そこで農作業をする農家の方々への感慨深い想いが語られています。

また、棚田サミットの発案者の1人である、劇団ふるさとときやらばんの石塚克彦氏によるエッセーも掲載されています。

初の棚田の写真集であるだけでなく、ページをめくるごとに心がくつろぎ、自然と人の共存を考えさせてくれる一冊になったと、感動の声も寄せられています。

■大きさ 188×168mm・オールカラー

■定価 1,500円(税込み)

※全国の書店でお買い求めできます

全国棚田(千枚田)連絡協議会より
新しく会員になられた方々

●正会員

団体	株浜勝(福岡県)
個人	小野 泰彦(東京都)
	平石 博(新潟県)
	広岡 立美(石川県)
	澤岡 俊明(徳島県)
	萬田 正治(鹿児島県)

●賛助会員

松本 武祝(東京都)
黒澤 駿正(埼玉県)
中村 靖彦(神奈川県)
菱山 晋一(長野県)
本田 隆久(京都府)
吉川 正明(高知県)
松岡 正宣(高知県)
井沢 忠藏(徳島県)

※全国棚田(千枚田)連絡協議会では会員を募集しています。お問い合わせは、連絡協議会事務局・高知県橋原町役場(TEL 0889-65-1111/FAX 0889-65-0956)まで。